様式第８号

議　長	副議長	局　長	次　長	係　長	

行　政　視　察　報　告　書

令和　5年　4月　18日

笠 岡 市 議 会 議 長　殿

議員　真鍋　陽子　㊞

下記のとおり行政視察を実施したのでその結果を報告します。

記

行　程　　令和5年4月１３日(木)　１３：３０―１５：３０　八丈町役場
(東京都八丈島八丈町大賀郷２５５１番地２　０４９９６－２－４４３７)
１６：００―１７：３０
八丈町農業担い手育成研修センター
(東京都八丈島八丈町大賀郷２５５１番地２　０４９９６－２－１１２５)
伊勢﨑武二　氏　作業場・圃場（あしたば畑）
(東京都八丈島八丈町樫立２６１　０４９９６－７－０１５０)
令和5年4月１４日(金)　９：００―１０：００　八丈興発
(東京都八丈島八丈町三根１２９９　０４９９６－２－０５５５)
１３：００―１４：３０　八丈島歴史民俗資料館
(東京都八丈島八丈町大賀郷２４６６番地２　０７０－４８１８－３６３１)
１５：００―１５：３０　八丈町コミュニティーセンター
(東京都八丈島八丈町三根２６－６　０４９９６－２－０７９７)

【1】

視察案件	八丈島の概要、農活プログラム、農産物、再生可能エネルギー、移住定住促進、特別支援教育、不登校における取り組み、給食における地産地消、島焼酎の生産、歴史民俗について
期　　日	令和5年4月１３日(木)～4月１４日(金)
応対者	別紙名刺のとおり
視察状況	別紙写真のとおり
訪問施設	4月１３日（木）　八丈町役場、あしたば生産者宅・圃場 4月１４日（金）　八丈興発、八丈島歴史民俗資料館、八丈町コミュニティーセンター

	【視察目的】 東京の南方海上２８７㎞に位置する八丈島における人口は６８５７人（令和５年４月１日現在）。人口減少や、それに伴う労働人口減少対策、及び農活プログラム、農産物や、島における教育システム、給食における地産地消、島の歴史民俗など視察することで、笠岡市内地および島しょ部における課題解決に活かすため
	〈八丈町役場議場にて〉 ○離島での農業については、内地と同じ作目を耕作しても収穫量の違い、出荷に至るまでの資材代などのコスト、輸送機関の欠航などのリスクが高いため、採算が得られがたい。故に地域にあった特色ある作目を高品質に栽培、島外へ出荷していかなければ収穫を確保していくことができないのでそのための支援メニューを用意している。 ○八丈町の独自政策「農活」は、農業初心者でも島で農業を始めることができるための体験プログラム。３０代～５０代・Ｉターンの方からの問い合わせが年に１０件ほどある。令和２年度にプログラムを始めてから、今までに２０人認定されている。遊休農地活用が課題。 ○人口移動については島内に高校卒業後の進学先がない、就学や転勤で島を離れる方が多いなど、笠岡市と似た課題がある。 ○「グリーンアイランドを目指す町」を掲げている。風力発電は風が強すぎて故障が多く、取り組みとしては結果難しかった。今は地熱発電の実用化に向けて取り組んでいる。 ○移住定住については、令和４年度ふるさと回帰センターに「東京多摩島しょ移住定住相談窓口」が開設された。特定有人国境離島地域が対象である雇用機会拡充支援事業などを利用して雇用を確保している。コロナによりＵターン者も増えた。地域おこし協力隊は今までに４人来たがそのうち３人が定住している。現在は４名が着任。廃校活用、エコツーリズム、再生可能エネルギー、広報企画及び運用担当などをしている。人手不足に対応するため、地域おこし協力隊をさまざまに活用したいと考えている。 ○島に定住する方に向けて東京都の「島しょ山村地域への定住サポート事業費補助金」制度も活用している。 ○特別支援教育において特筆すべきは、議会と行政が一体となって東京都に要望し、令和３年４月から実現した「東京都立青鳥特別支援学校八丈分教室」。以前、特別支援学校適の生徒は中学卒業後は内地で寮生活を余儀なくされていたが、分教室開校により生徒、保護者の進学による負担が格段に軽減した。 ○町内における不登校児童生徒数は小学校で３人、中学校で９人。定期的な家庭訪問や、時間差登校、スクールカウンセラーやICTを活用した授業ライブ配信などに取り組んでいる。八丈町コミュニティーセンター内に適応指導教室があり通っている生徒もいる。まったく外に出てこないのは３人。不登校生徒には発達障がいの可能性も考えられるが、発達障がいを見抜けるような専門家の配置が難しいことが課題。夜間に仕事をしている保護者が生徒を仕事場に連れていくために朝起きることができない、ネットゲーム依存により生活リズムが乱れているなどの問題や、移住者の子どもが町になじめないことから不登校になるケースもある。不登校になった子どもを無理に登校させない方針の保護者もいる。 ○給食は中央センター方式で約６００食作っており、安定供給に課題があるため地産地消率は低く令和４年度（令和５年１月末時点）においては１０．８５％。魚の不漁などあったが、八丈フルーツレモンやトマト、メジシーチキンなど新しい品目や新たなメニューを増やすことで自給率をあげようと工夫している。

〈現地視察　八丈島担い手研修センター・あしたば畑〉

○農業の新規就農者を育成するために開設された八丈島担い手研修センターは平成２０年４月１日、東京都山村・離島振興施設整備事業により整備されたセンター。東京都指導農業士による島の特産品である切葉や果物栽培を通して指導を受け、作日の収穫・出荷調整作業などを行っている。ハウスの張替え作業なども指導農業士が指導を行っている。

○あしたばの出荷作業場、あしたば畑では実際に畑であしたばを採り、作業所では売り物にするためにまとめる作業を行った。わずかに傷がついたり葉の先が欠けていても正規出荷されず、やぎの餌になるということで、慎重さが必要な作業であった。気温が高すぎても枯れてしまうとのことで、あしたば畑は森の中にあった。あしたばは給食にも使用されていたり、粉末加工され島外へ様々に出荷されている。島内でもうどんやチーズケーキ、ソフトクリームなどに入っていたり、そのまま天ぷらやあえものとして八丈島を代表する食べ物となっている。

<八丈興発>

水資源に恵まれている八丈島においては現在焼酎の蔵本が４軒ある。その内の一軒、八丈興発を視察。工場内に入ると甘い匂いが充満していた。２階部分から発酵タンクなどを見学。島内で回収した瓶や島外から運ばれてきた瓶を洗浄後、焼酎を詰めていく作業が行われるとのこと。私たちがリサイクルで出している瓶が、たしかに目の前で活用されている様子をもっとたくさんの方々に見ていただくことで、社会のリサイクルに対する考え方がさらに深まるのではと考えている。

<八丈島歴史民俗資料館>

１９７５年から八丈島歴史民俗資料館として利用されてきた旧東京都八丈支庁舎は１９３９年建築の国登録有形文化財だ。老朽化のため２０１８年３月にいったん閉館したが、八丈町では建物の文化的価値を生かした新しい歴史民俗資料館として再生する計画を進めている。現在は東京都八丈支庁展示ホール内に場所を移し、様々な歴史資料を展示中。縄文の時代から人が住み、他の島との文化交流が様々にあったことなどよくわかる展示内容となっている。岡山城城主宇喜多秀家は近世伊豆諸島流人として最初の人物であり、１６０６年３４歳の時に流刑され、１６５５年８３歳で没した。八丈町教育委員会では宇喜多秀家のパンフレットを作成、資料館においても特設コーナーが作られるなど、宇喜多秀家は今でも八丈町で大切に扱われている。説明係の方がとても詳しく、常時置かれていない配布資料や三宅島の資料なども出してくださりとても丁寧に対応くださった。

<八丈町コミュニティーセンター>

１９７１年に完成した東京都勤労福祉会館を２００４年度、東京都から譲り受け八丈町コミュニティーセンターとして活用している。中にボウリング場、体育館、テニスコート、図書館、適応指導教室がある。図書館の利用者数は６５３７人（２０２１年度）。適応指導教室には現在１名の生徒が通う。保護者が引率をしなければ通えない立地であることが課題としてあげられていた。

<考　察>

八丈町は農業振興のため、町独自の農活プログラムや農業担い手育成研修センターを運用している。この農業政策は笠岡市においても参考にできると考えている。

行政視察研修場所となった議場内の机と椅子はすべて簡単に移動が可能だった。議会が開催される以外の日程においては執行部が会議などに使用することができる。今後笠岡市においても、庁舎や議会棟を建て替える際には一考の余地があると考える。